



「西光寺の将来のこと」

慈光照護のもと、門信徒のみなさまには
 愈々ご清祥にてお念仏ご相続のことと慶賀
 に存じ上げます。コロナ禍ももうどう気をつ
 けてよいのやら、ワクチンはどうなるのか
 接種していいのかどうなのかもうさつぱ
 りわかりません。いろいろな情報に振り回
 されないようにと思いますが、私自身は『マ
 スクをしないと白い目で見られるからす
 る』『手指の消毒をしないと……』となにも
 かも他人の目を気にしてやっているとば
 かりのような気がします。オリンピックも
 も三国祭もどうなるのでしょうか。いつ誰
 がどんな結論を出すのでしょうか。学生さ
 んなど若い方が思い切り活動できないのは
 本当にかわいそうです。

さて、標題に戻ります。本当は違うこと
 を書いていて、このページの3分の2まで
 進んだところで、あれ？やっぱりこれいつ
 か書いた気がする……と思って過去の寺報
 を調べたらなんと3年前にほとんど同じこ
 とを書いていました。さすがに80号を超

えるとだんだんネタ切れになってくるのでし
 ょうか？まあ、またいつかその話題も出すと思いま
 すので、今回はばつさりと書いた原稿を削除し
 て、これまたいつか書こうと思つていたもの、
 なかなか書くことができなかったことを思い
 切つて書こうと思います。

西光寺が寛文二年(1662)に現在の高岡市内島
 を所払いになつて、船で三国に流れ着いてから
 早三百六十年が経とうとしています。その間な
 んとか私の先祖は西光寺の代々の住職として寺
 を護持させていたことができたが、いよ
 いよ私の代で血縁としての住職の継承は終焉を
 迎えることになりました。そのことについては
 私個人としてはこれまでお寺と一緒に護持して
 くださったご門徒さまに対してたいへん申しわ
 けなく思つておりますが、戦後の数十年で時代が
 劇的に変化したことも大きな要因だと思つてお
 ります。西光寺はもちろん内嶋家のものではな
 く、ご門徒さまみなさまのものです。内嶋家は字
 のごとく『住職』として寺に住まわせていただき、
 ご門徒のみなさまからの施しで生きて参りまし
 た。その大前提が大きく変わつてきてしまつた
 と思つています。ご存知のように三国はとにか
 くお寺が多く、三国町だけで七千三百弱の世帯数
 に対して、55ヶ寺(過去の三国町連合仏教会の名
 簿より)という数のお寺があります。必然的に小
 規模なお寺が多く、北前船の栄えていた頃の
 旦那衆が多く、寄進をしてくださった時代とは
 異なり、ご門徒さまだけでお寺の本堂などの維持

管理はとても難しい状況です。寺の住職も
 兼職(他の仕事に従事しながら住職をし
 ている)というお寺のほうが多く、西光寺
 同様、次の世代がいけないというお寺もたい
 へん多いです。ご門徒さまとすることが話
 題になると、「本山から住職がきてくれるん
 でしょうか?」と言われることが多いのです
 が、それは無理です。本山が住職を派遣す
 ることはあり得ません。もちろん、住職を
 募集することはできますし、お寺に入りた
 いという僧侶もいることは事実です。しか
 し、入寺希望の方も、『経営的に成り立つお
 寺』に入寺したいのです。ですから都会の
 お寺には希望はありますが、過疎地域の老
 朽化した寺院への入寺希望は残念ながらあ
 りません。

西光寺の建物は本堂はもちろん、庫裏も
 戦前からの建物が多くを占めています。こ
 れまで数多くの修復はしてきましたが、そ
 れも限界に近づいています。雨漏りもあり
 ますし、大きな梁が木材がスポンジ状に
 なつて指で押すとズブズブと穴が空いてし
 まうような所もあります。本堂の屋根も前
 回葺き替えしたときに資金不足で表しか
 やつていません。裏を見てもらえば瓦は
 真つ赤で雨漏りをコーキングでなんとか止
 めてもらっている状況です(写真参照)。屋
 根を葺き替えれば一千万円以上はかかりま
 す。私が住職をさせていたでいる間は

なんとか応急処置で対処していかうとは思っています。が、それ以降はお寺として本堂を使用していくのであれば屋根の葺き替えは必須だと思えます。庫裏に至っては建て替えが必要だと思えます。しかし、これからの時代にこの規模の寺院でこれだけの大きさの本堂が必要なのかと言われると正直疑問に思えます。庫裏に至ってはこれだけの大きさはまったく必要ないと思えます。これは、お寺でお葬式をしたり、報恩講などの法要でたくさんのご門徒さまが台所でお齋(法要の食事)を作るためのものであつたはずです。これらのことに関して、寺報の紙面だけではとてもお伝えしきれず、また、紙面に書いていいのか悩むような事柄もありますので、ご門徒のみなさまに直接ご相談しなければならぬ必要性を感じています。私も今年はずいぶん還暦です。私が住職の勤めができなくなったときにどうするかを門徒総会を開いてご相談させていただきたいと思えます。コロナ禍の終息が見えてきた温暖な気候のときにご案内させていただきます。



西光寺本堂の衛星写真より

でございますので、そのときにはぜひご意見をお聞かせいただきたいと思います。

「春の彼岸会にお参りください」

日	10時〜	14時〜	19時〜
18日 (木)		速夜 正信偈行譜 法話一席	

3月18日(木) 午後2時〜

今年はずいぶん法話をさせていただきたいと思えます。長いことよそのお寺でお話しさせていただくこともありませんでしたので、ちゃんとできるか不安ですが精一杯勤めさせていただきますので、お気軽にお参りください。

「お葬式の式次第を変えました」

これまで、お葬式の式次第はなぜか本願寺の定める式次第とは一部異なっていました。西光寺では今年から本願寺の定めた式次第の通りにお勤めすることにいたしました。といつてもそんなに変わるわけではありません。葬場勤行の前に、年忌法要などでもお勤めしている三奉請とお葬式の表白をお勤めさせていただきます。いきなり正信偈のお勤めに入るよりも、儀式としての荘厳な雰囲気になると思えます。学校の一年間でもっとも大切な行事は卒業式です。人生の最後を飾るお葬式もできる限り精一杯いいねいにお勤めさせていただこうと思っております。

「お知らせいろいろ」

■敬弔

生前のご功勞を偲び心より哀悼の意を表します。

令和三年一月十七日
釋良晶 塚田よし子様 (神奈川)

令和三年二月十六日
釋明覚 四折文明様 (青葉台)

■法要のロゴができました。

寺報の80号でもお知らせした、『親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要』のロゴができました。



■福間先生の著書がまだあります。

前号でお知らせした先生の著書を読みたい方は住職までご連絡ください。では彼岸会でお会いしましょう。

住職携帯 090-18967-17902
メール soichiro4989@gmail.com
ブログ 西光寺で最高時！